

平成30年度

第1回奈良県教育サミット



平群町教育委員会
教育長 岡 弘明

学校図書館の活性化

◎平成20年～ 子ども読書活動推進計画策定

- ・ワーキング会議の開催
- ・学校図書館の実態調査

◎平成23年～ 学校図書館支援事業の開始

- ・図書館電算システム 横断検索システムを導入
- ・書籍データ 装備仕様の統一
- ・学校図書館内の環境整備
- ・利用カードの共通化
- ・横断検索システムの家庭利用開始

※旧来の「図書室」という概念の払拭

平群町の幼児教育・学校教育の現状

●幼児保育・教育

○幼保連携型認定こども園	・はなさとこども園	128名
	・ゆめさとこども園	265名
		<hr/> 393名

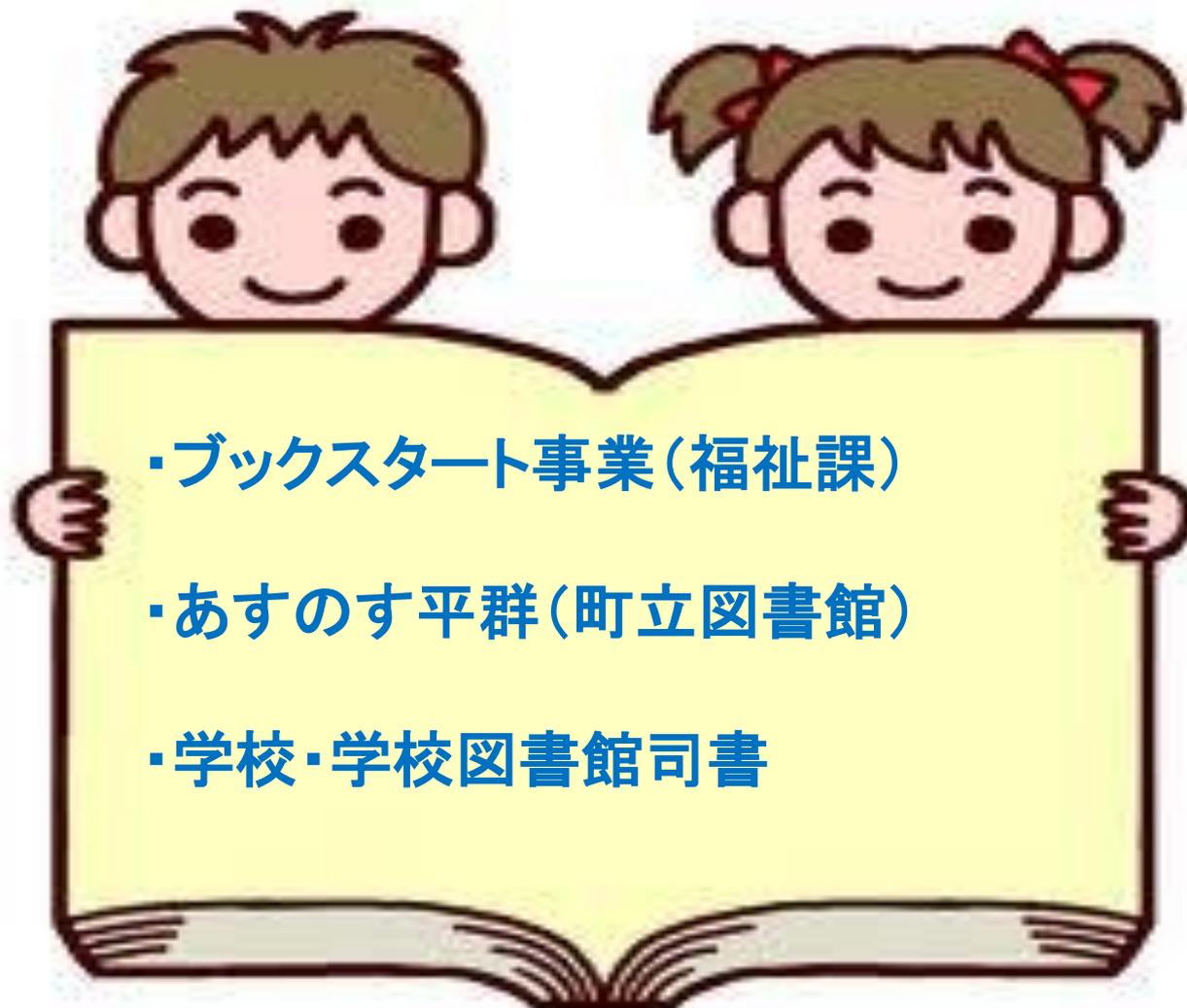
●小 学 校

・平群小学校	331名
・平群北小学校	325名
・平群南小学校	151名
	<hr/> 804名

●中 学 校

・平群中学校	437名
--------	------

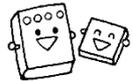
関係機関との連携



- ・ブックスタート事業(福祉課)
- ・あすのす平群(町立図書館)
- ・学校・学校図書館司書

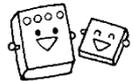
あすのす平群（町立図書館）との連携

ブックスタートボランティア養成講座



町の母子保健事業

ブックスタートの位置づけ

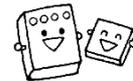


ブックスタートの対象

3～5ヶ月児の発達



言葉の成り立ち

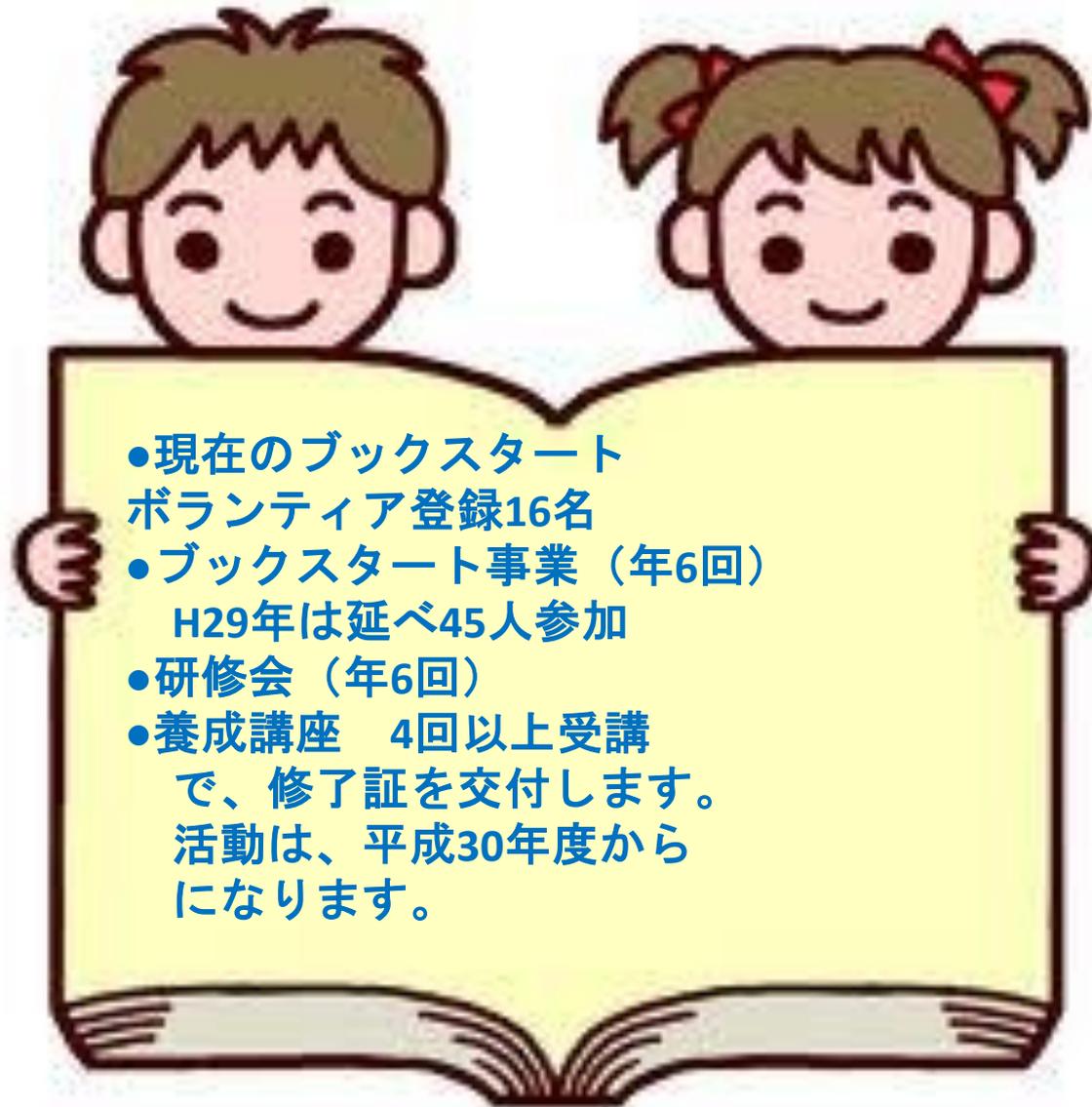


ブックスタートボランティアの活動・意義

ブックスタートボランティアが参画している意義
孤育てにならないように、地域で子育て
自己研鑽の為の研修会



ブックスタートボランティアの実績



- 現在のブックスタートボランティア登録16名
- ブックスタート事業（年6回）
H29年は延べ45人参加
- 研修会（年6回）
- 養成講座 4回以上受講
で、修了証を交付します。
活動は、平成30年度から
になります。

ブックスタート事業の実際

①対象者の確認、本選び、手作り鞆の配布



②読み聞かせの大切さ



ブックスタートボランティアの活動・意義

親の中には、赤ちゃんへの声のかけ方や、接し方がわからず悩んでいる方もいますが、ブックスタートで親子がふれあう具体的なきっかけを届けることで、子育てを楽しむきっかけづくりを提供できます。また、子どもにとっても、**親と絵本を介して楽しい時間をもち、人との関わりを楽しむ経験は、成長した時の豊かなコミュニケーションにもつながっていると思います。**

それらをブックスタートボランティアが、住民目線で、あたたかな言葉をかけながら地域で子育てを応援していることを伝えてくださるので、親の心のケアにもつながっていると感じています。

孤育てにならないように、地域で子育て

～ボランティアのみなさんも楽しんでください。～



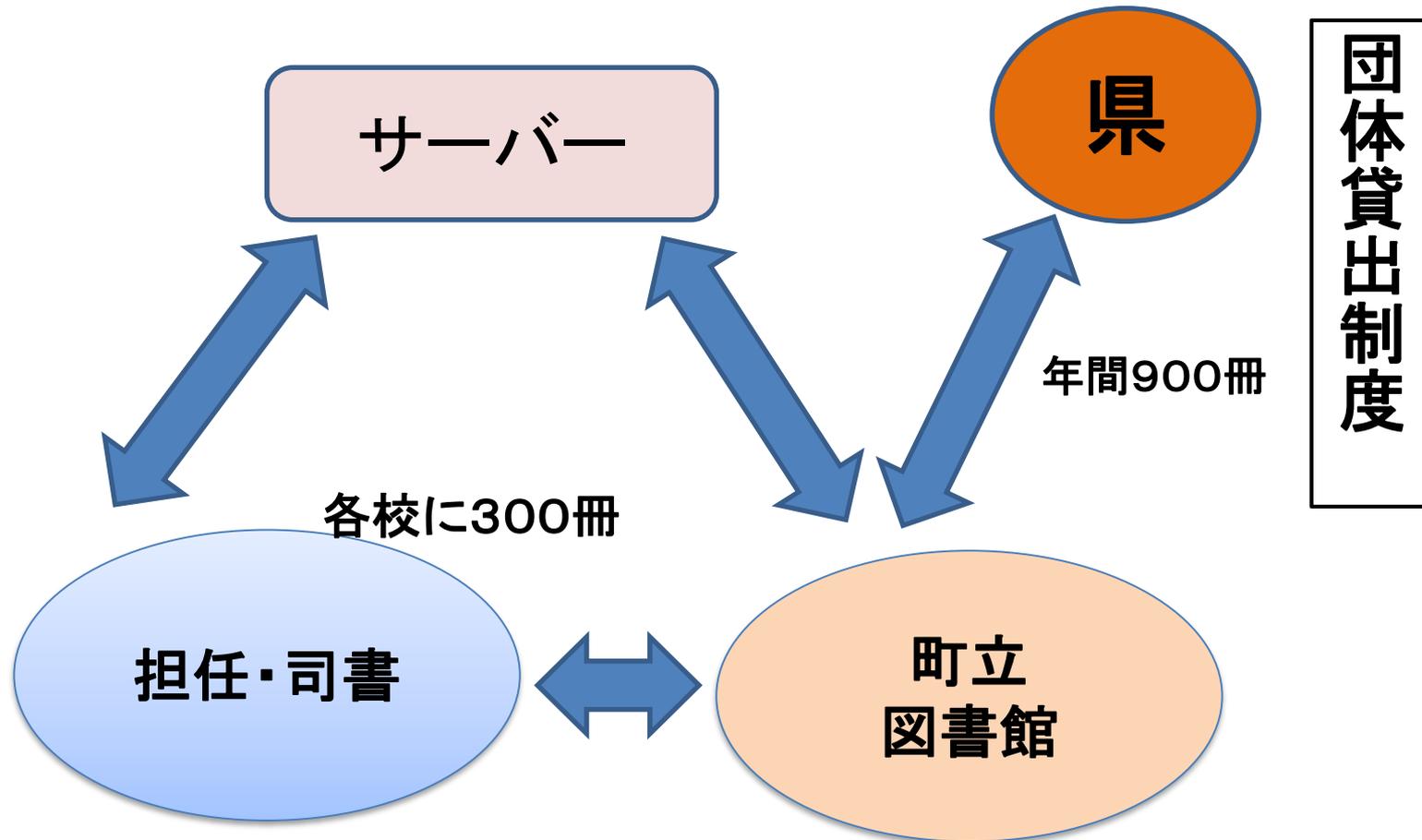
あすのす平群（町立図書館）とこども園の連携

こども園の読書環境と保護者へのアプローチ

- ・0歳～二歳
2週間に一度、本の持ち帰りと読み聞かせの助言
- ・三歳～五歳
1週間に一度、本の持ち帰りと読み聞かせ
- ・全保護者
月間絵本の購入と読み聞かせ
- ・お話の会（ボランティア）による読み聞かせ
※三歳から五歳の園児を対象に月一回



あすのす平群（町立図書館）と学校の連携



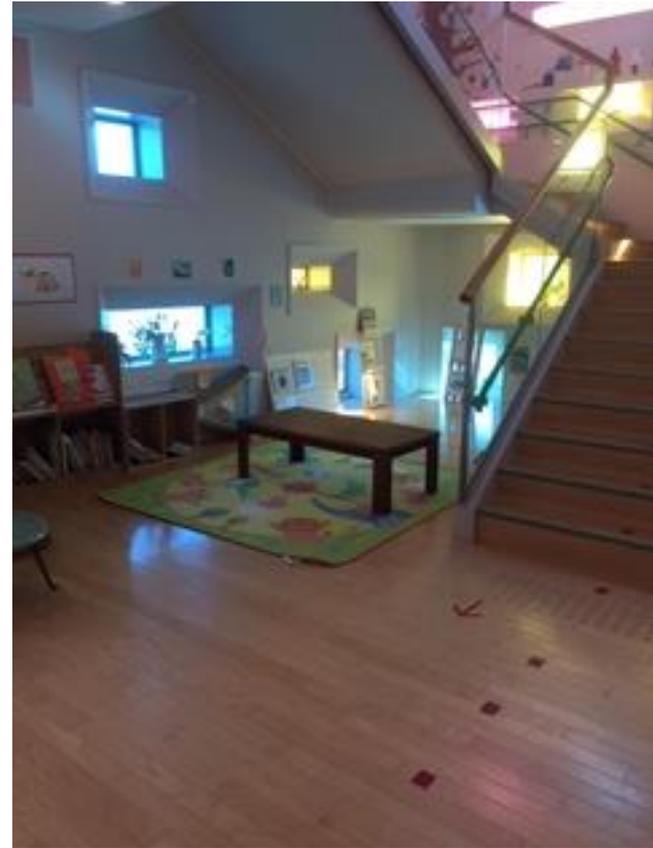
※図書館システムの一体運用



こども園の読書環境



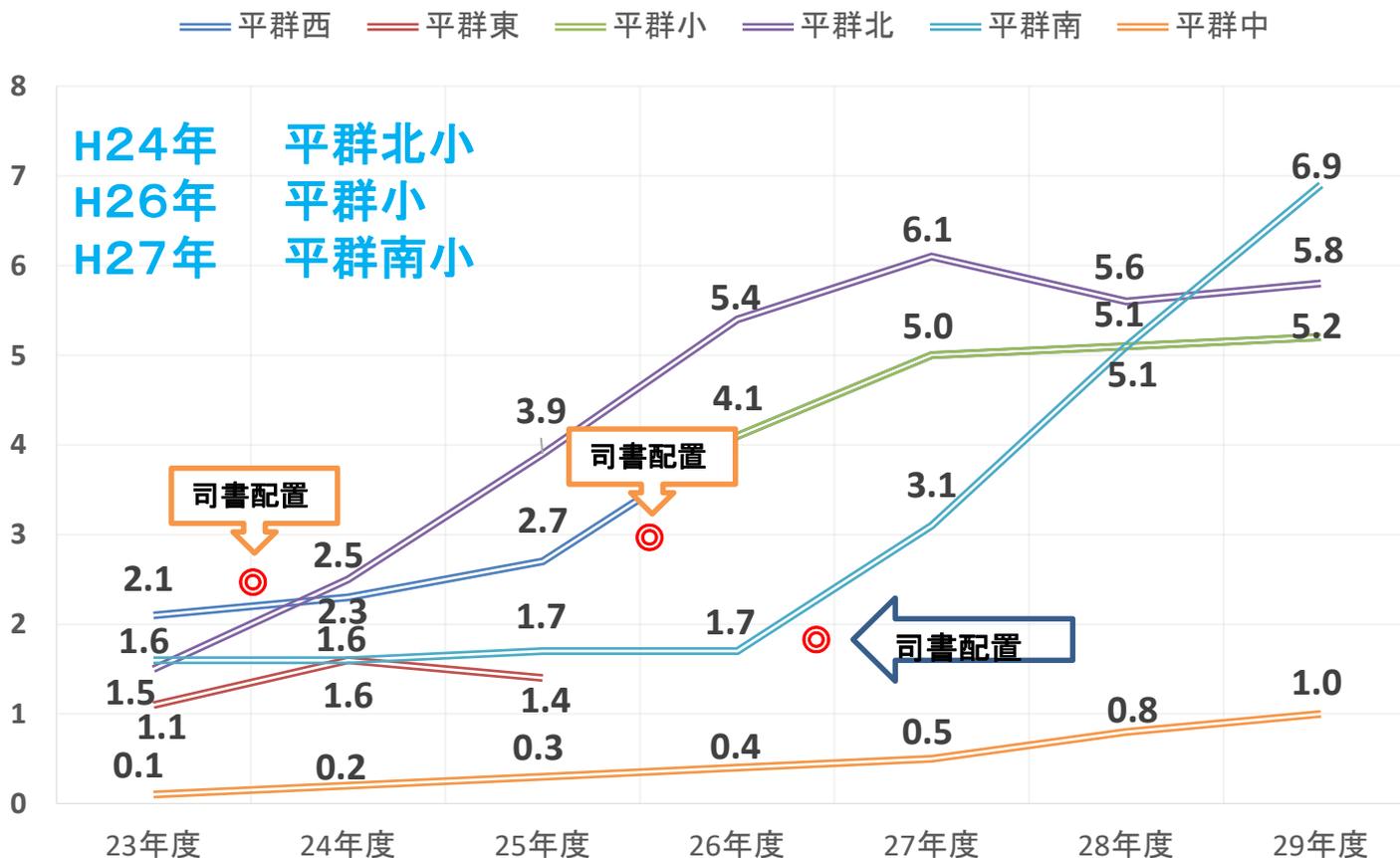
廊下の柱を活用した
読書スペース



階段下を活用した
読書スペース

専任司書の配置と読書量の増加

児童生徒一人当たりの貸出冊数(月)



学校図書館司書の配置と 読書時間の推移

		28年度		29年度		30年度	
		平群	県	平群	県	平群	県
一日30分以上読書をする	小学校	34.7	34.0	45.3	34.5	46.0	38.8
	中学校	27.1	24.6	27.5	24.9	27.3	25.1
全く読まない	小学校	20.0	24.0	19.9	24.3	24.4	22.9
	中学校	40.7	44.0	24.6	42.4	35.9	42.1

学力・学習状況調査より

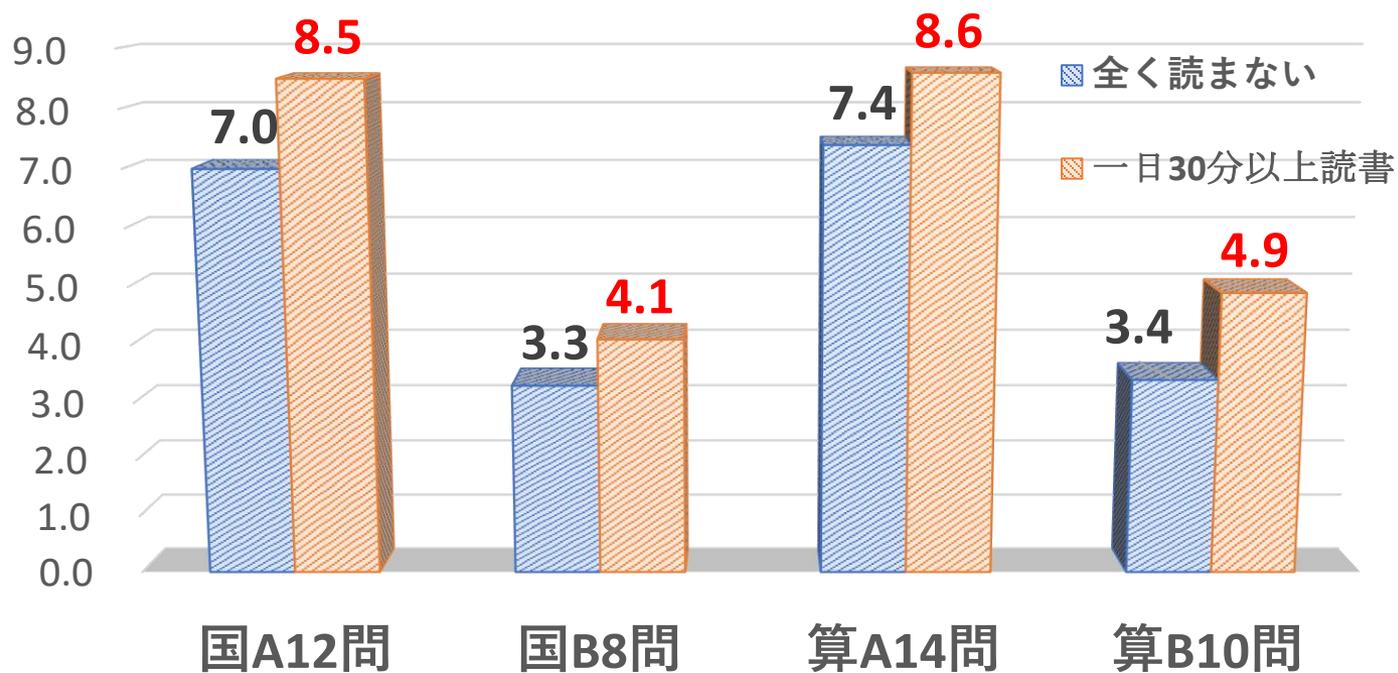
読書と平均正答率 (全国学力・学習状況調査より)

平成30年度小学校	国A		国B		算A		算B	
	12問	町平均	8問	町平均	14問	町平均	10問	町平均
一日30分以上読書	8.5	8.2	4.1	4.0	8.6	8.5	4.9	4.6
一日30分以内読書	7.6		3.8		8		4.1	
全く読まない	7.0		3.3		7.4		3.4	

- ・全く読書をしない子と正答数には負の関係があるようである。
- ・なぜ読まないのかという背景を探らなければいけない。

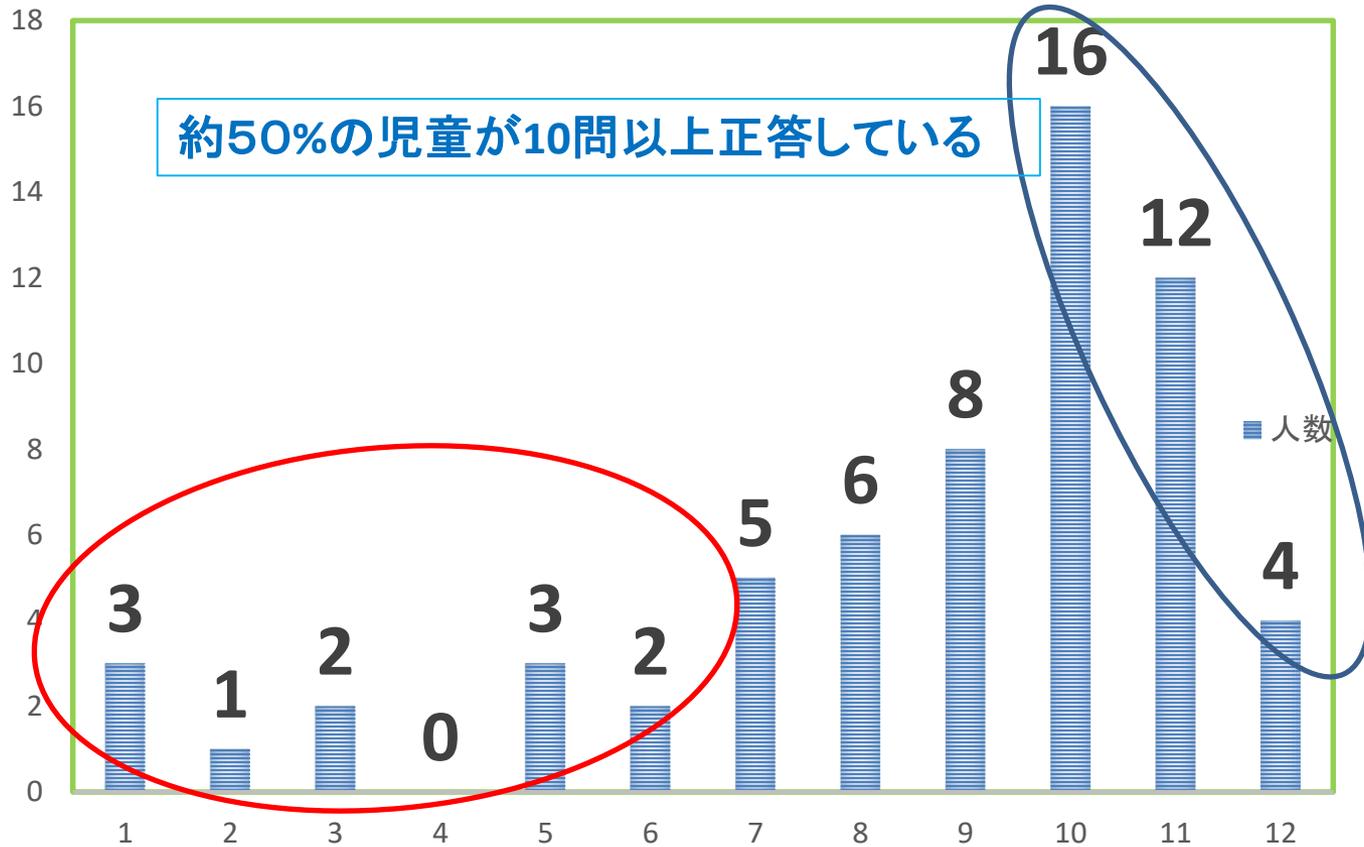
	国A12問	国B8問	算A14問	算B10問
全く読まない	7.0	3.3	7.4	3.4
一日30分以上読書	8.5	4.1	8.6	4.9
差	1.5	0.8	1.2	1.5

読書時間と正答数



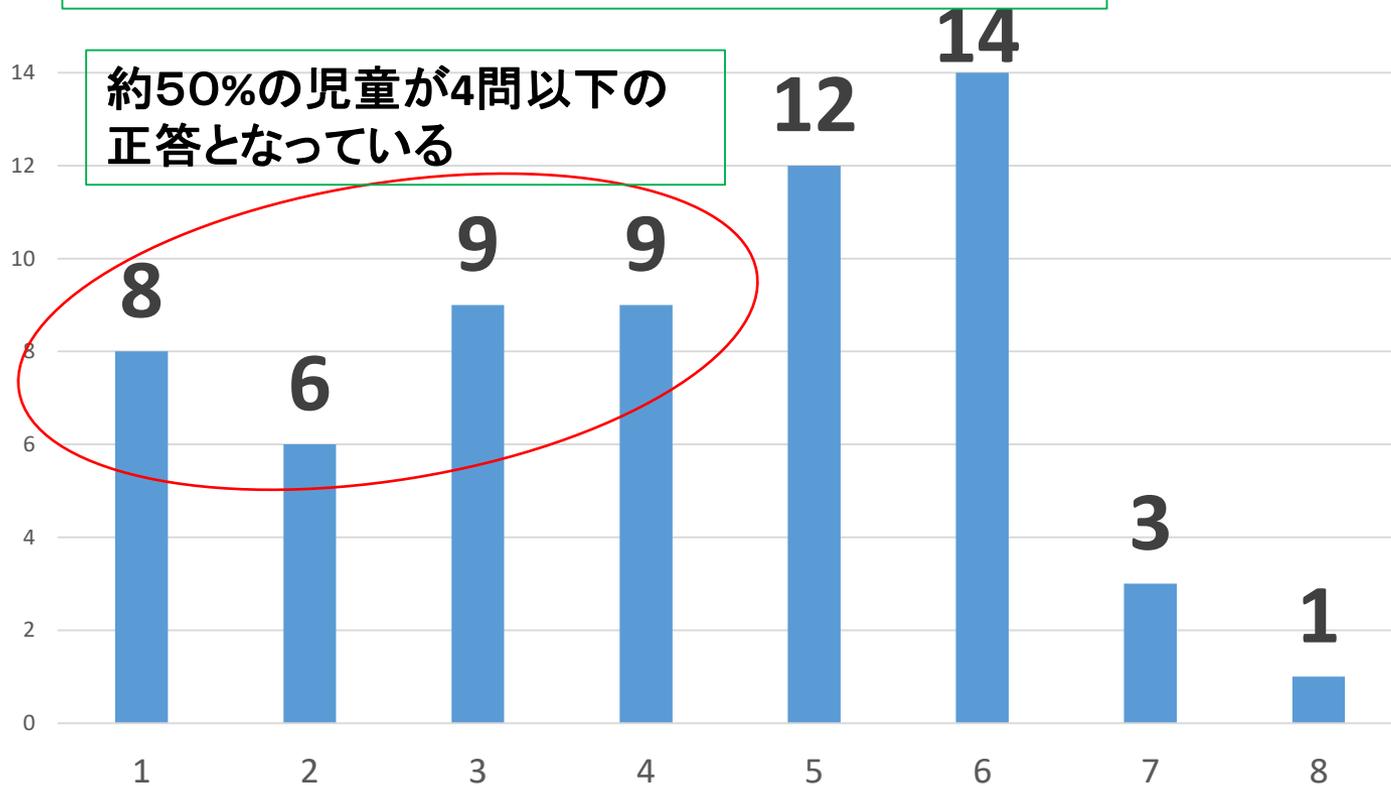
30分以上読書している児童が

12問中 何問正答したか(H30国A)



30分以上読書している児童が
8問中 何問正答したか (H30国B)

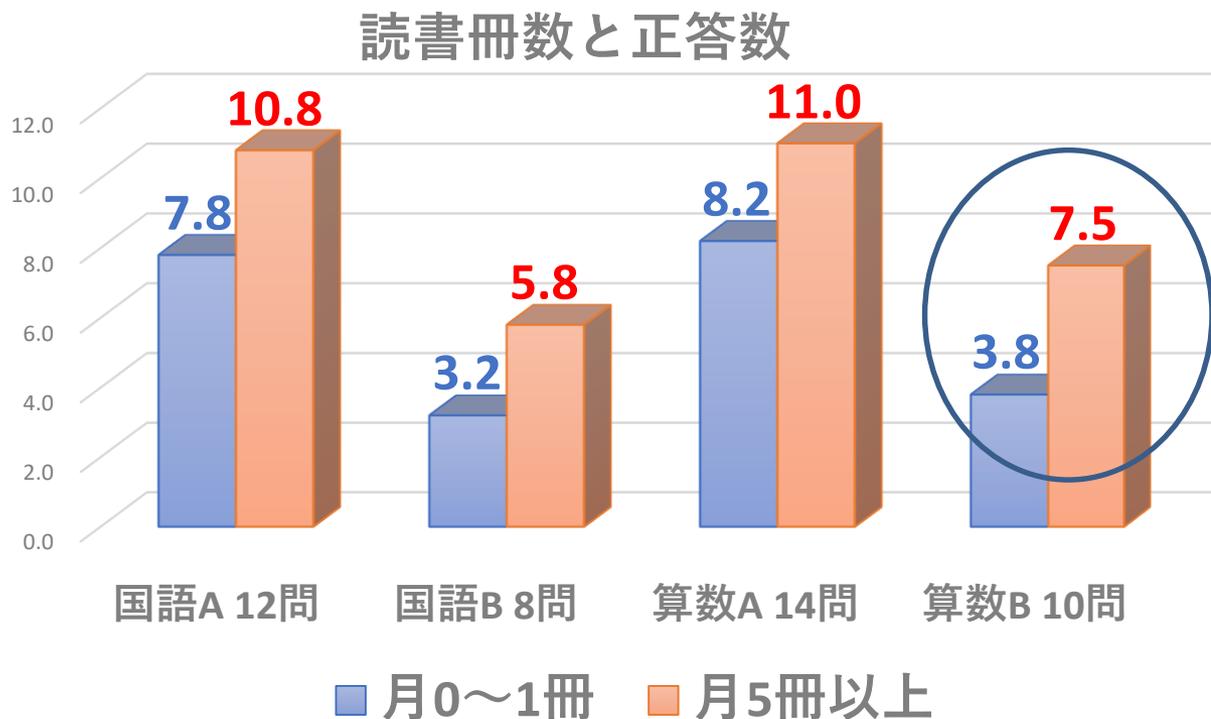
約50%の児童が4問以下の
正答となっている



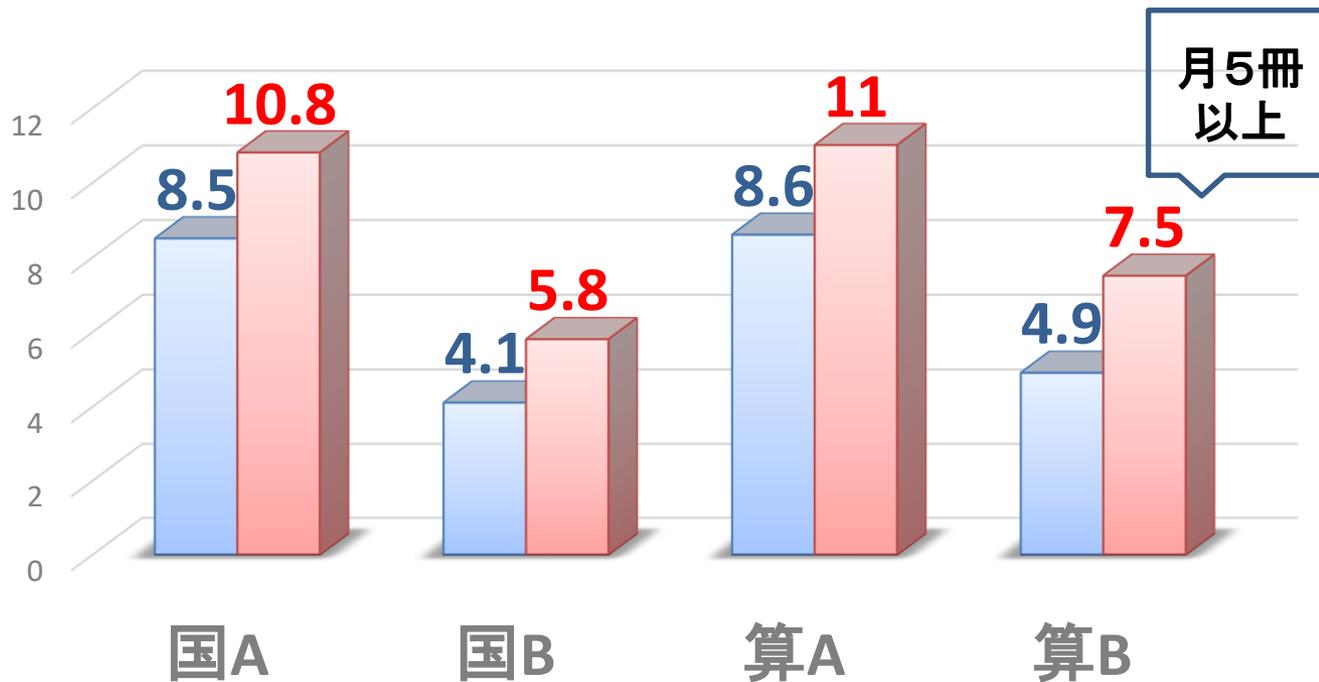
読書量が読解力につながっていないのではないか？

総合	月0～1冊	月5冊以上	差
国語A 12問	7.8	10.8	3.0
国語B 8問	3.2	5.8	2.6
算数A 14問	8.2	11.0	2.8
算数B 10問	3.8	7.5	3.7

30分以上という
読書時間
↓
読書冊数の多少と
学力学習状況調査結果



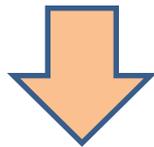
一日30分以上と 月に5冊以上の比較と正答数



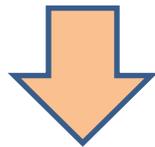
こども達を読書好きにする

例・・・担任と司書の連携

◎教科書で「新見南吉」の作品を扱う

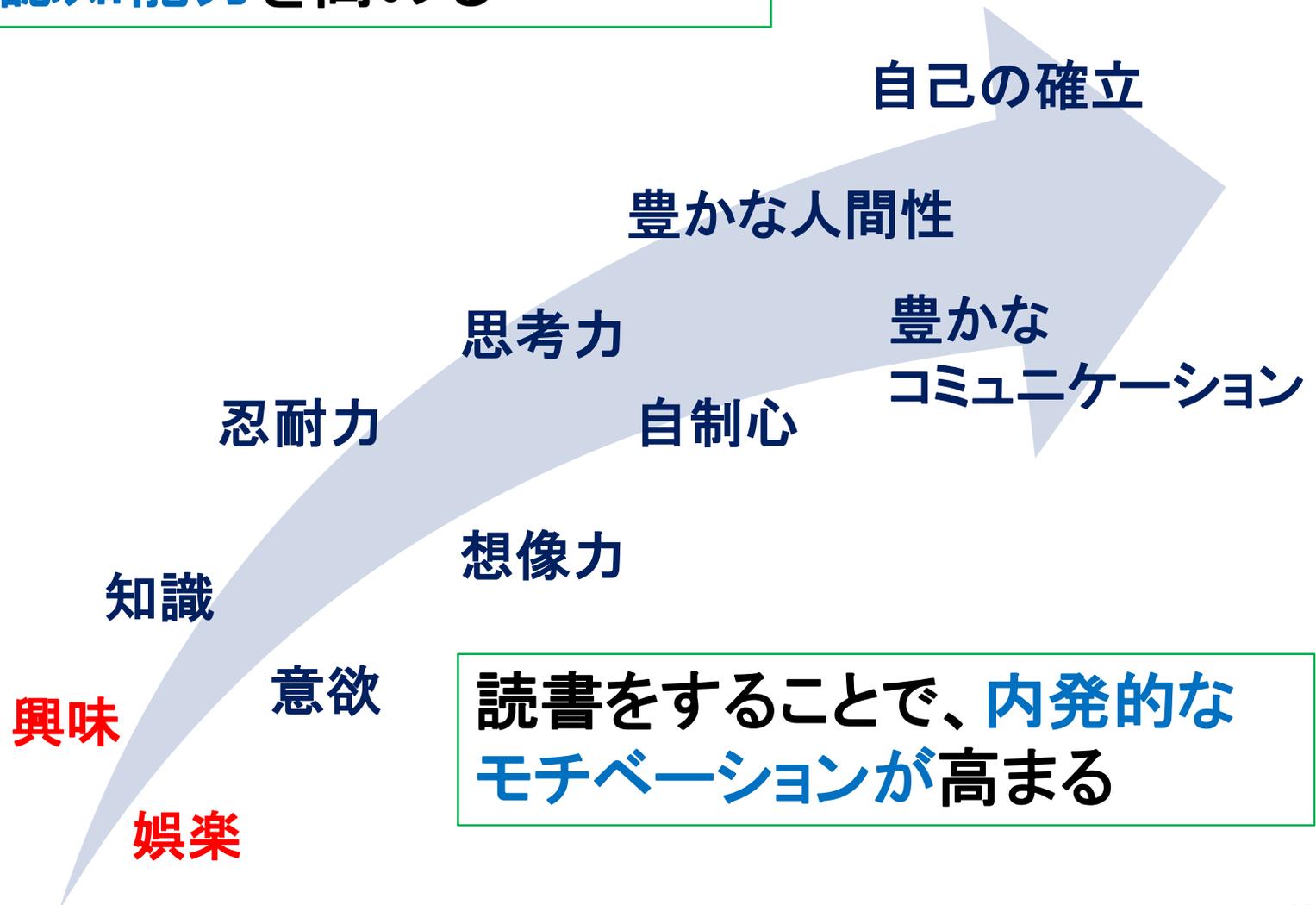


◎司書に「新見南吉」の作品を集めてもらう



◎学級図書に置いて自然に手が出るようにする

読書は学力向上だけでなく
非認知能力を高める



学びを
伸ばす



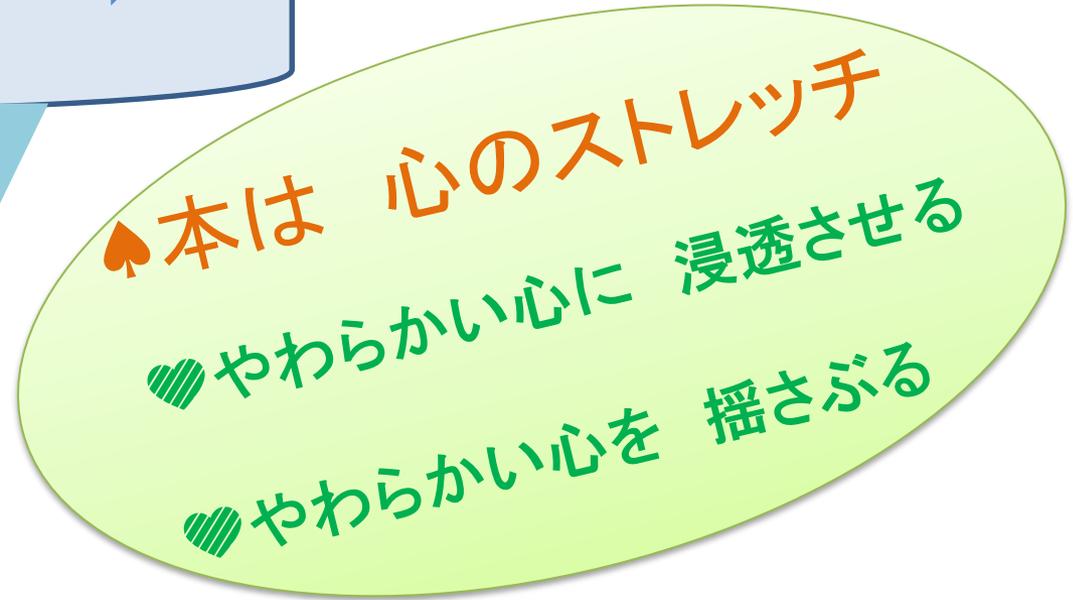
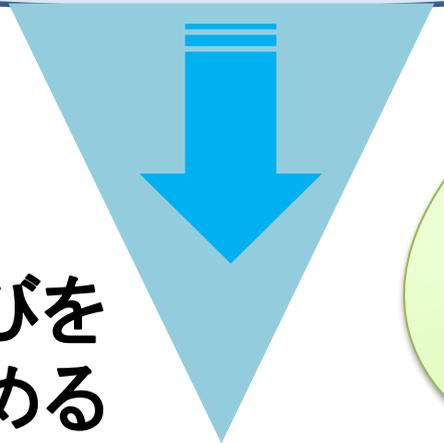
早く読まないとなんか大人になっちゃうよ!

学びを
広げる



読書

学びを
深める



- ♠ 本は 心のストレッチ
- やわらかい心に 浸透させる
- やわらかい心を 揺さぶる



子ども達の自主的な読書活動は、読書時間や冊数で数値化できるが、読書の質を測ることは難しい。

町内の六学年という限られたサンプルであるが、読書冊数と国語・算数の正答率に相関が認められる。このため、黙読だけでなく、読書をベースにして「書く」「話す」「聞く」といった学習活動が大切であると考えられる。

「全国学力学習状況調査の結果を活用した学力に影響を与える要因分析」では、家庭の社会経済的背景と学力の関係が明らかにされている。しかし、不利な家庭環境においても成果を上げている学校の特徴が示されている。

- ・管理職のリーダーシップ
- ・実践的な教員研修
- ・家庭学習の指導の充実
- ・読書習慣の形成・・・等

以上の分析結果は、例年冬季休業中に実施している町内の学力向上のための研修会で共有する。

実践的課題



♥ 読書から読解力へ

◎インプットしたものをアウトプットする場の設定

- ・成長に合わせた質問力
- ・ビブリオバトル
- ・一分間スピーチ

♥ 個に応じた指導の充実(5W1H)

♥ チーム学校の一員としての司書

◎学校図書館司書と担任との更なる連携

- ・学級経営、教科経営に専門性を生かした助言

◎読書活動における個別の助言

- ・読書を敬遠する子ども達へのアプローチ

◎子供の居場所としての学校図書館経営

- ・保健室よりも軽い雰囲気での相談等ができる